

はじめに



これまでに感謝し、新たな出発に期待する

岸和田市は、21世紀に向けたまちづくりを研究するため、平成5年4月に都市政策調査室を設置し、翌平成6年には「都市政策研究会」を設立、そして平成9年4月に都市政策調査室を発展的に解消し、高度化する都市課題について長期的展望に立った、より総合的・専門的な調査活動を行う独立したシンクタンク組織として、産・学・官・民の各層からなる「きしわだ都市政策研究所」を設立しました。長期にわたる経済不況、少子高齢化や高度情報化等社会環境の変化、地方分権の流れや住民ニーズの多様化など複雑多岐にわたる諸要因により、地方自治体における都市経営は非常な努力と創意工夫が求められています。

このような状況の中で、きしわだ都市政策研究所は、「市町村合併と広域行政」「少子高齢社会に対応するまちづくり～ユニバーサルデザインの視点から～」「スロータウンのまちづくり～市民的豊かさの実現と可能性」「協力社会とサステナブル（持続可能）なまちづくり」等の研究・提言を行い、平成19・20年度の2年間は「地域力の創造にむけて～ソーシャルキャピタルのまちづくり～」をテーマとして調査研究を行いました。

とりわけ、この2年間は市民研究員制度の下、熱心な市民研究員の方々と共に市政に反映できる具体的な提言を含む研究成果を上げることができました。また、大阪府内はもちろん、他市からも高く評価されるようになって来ました。しかし、時代の流れの中で、市の政策形成能力の強化充実と研究組織全体のスリム化を図るという岸和田市行政の方針から、外郭団体であった研究所を行政内部組織化することになり、平成21年3月末をもって解散することを決定しました。平成21年度からは、岸和田市企画調整部企画課都市政策研究スタッフとして新たなスタートを切ることになります。

このような経過から、この15年間のまとめとして平成21年2月14日に、平成20年度まちづくりフォーラムを開催しました。初代理事長の加茂利男（立命館大学教授）氏から「21世紀のまちづくりと岸和田」と題して、講演していただき、「地域力の創造にむけて～ソーシャルキャピタルのまちづくり～」のテーマで久隆浩氏（近畿大学理工学部教授）、大石田久宗氏（東京都三鷹市都市政策部調整担当部長）、弘本由香里氏（大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所客員研究員）をパネリストに、理事長として最後の研究活動をさせていただきました。まことに感慨深いものがありました。

個人的には30年近く、岸和田市の市民、行政、とりわけ福祉関係者の方々から、多くの学びと支えをいただきました。ここに、心より感謝申し上げますと共に、今後とも都市政策研究にご協力いただき、新組織を支えていただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、岸和田らしい実践的研究エネルギーの灯を消さないよう行政として尽力されますよう期待します。

きしわだ都市政策研究所 理事長
同志社大学社会学部教授

上野谷 加代子

きしわだ都市政策研究所概要

1、設立趣旨及び経過

長期にわたる経済不況と国・地方の財政危機、少子高齢化や高度情報化等社会環境の変化、地方分権の流れや住民ニーズの多様化など複雑多岐にわたる諸要因により、地方自治体における行財政運営はますます困難さを増し、都市経営に非常な努力と創意工夫が求められています。

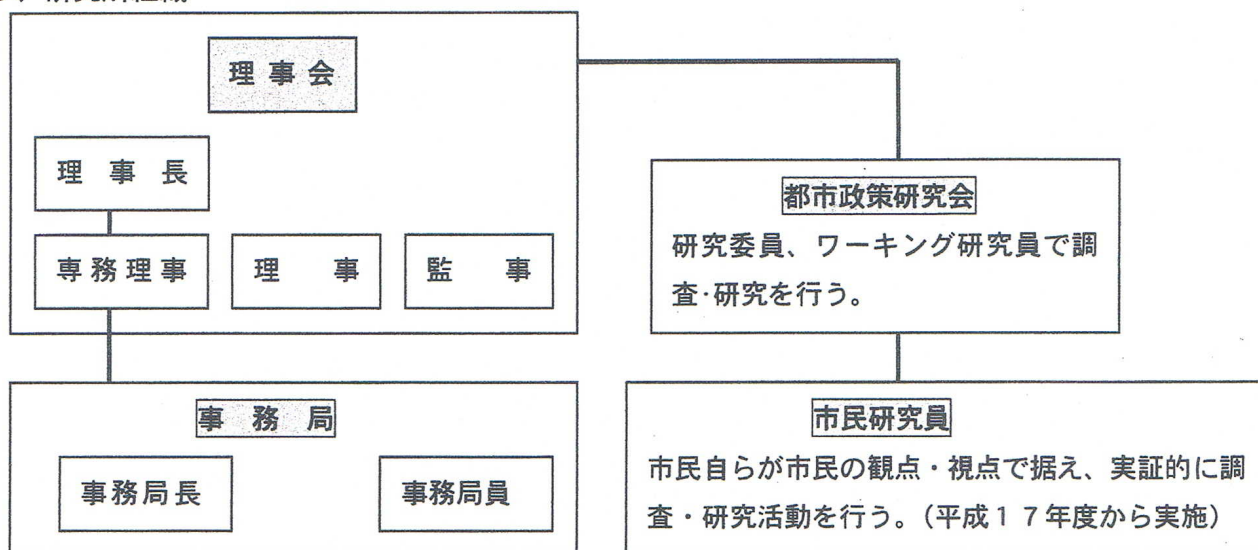
このような状況の中で、本市は、21世紀に向けたまちづくりを研究するため、平成5年4月に都市政策調査室を設置し、翌平成6年には「都市政策研究会」を設立しました。そして平成9年4月に都市政策調査室を発展的に解消し、高度化する都市課題について長期的展望に立った、より総合的・専門的な調査活動をおこなう独立したシンクタンク組織として、産・学・官・民の各層からなる「きしわだ都市政策研究所」を設立したものです。

これらの経過の中で「市町村合併と広域行政」「少子高齢社会に対応するまちづくり～ユニバーサルデザインの視点から～」「スロータウンのまちづくり～市民的豊かさの実現と可能性」「協力社会とサステイナブル（持続可能）なまちづくり」等の研究・提言をおこない、現在、平成19・20年度の2年間をかけ「地域力の創造にむけて～ソーシャルキャピタルのまちづくり～」をテーマとして調査研究をおこなっています。本年度は、1年目の中間報告となります。

2、事業内容

- ①地域社会に関する総合的な調査研究及び政策提言
- ②市民研究員制度の実施
- ③講演会（まちづくりフォーラム等）、研究会等の開催
- ④研究活動行政支援事業
- ⑤都市政策に関する資料提供・情報収集
- ⑥その他必要な事業（インターンシップ生の受け入れなど）

3、研究所組織



4、理事

理事長	上野谷 加代子	同志社大学社会学部教授
理事	檜 谷 美恵子	大阪市立大学生活科学部准教授
”	肥 山 正 秀	大阪府立産業開発研究所調査研究部 総括研究員
”	道 齋 芳 雄	岸和田商工会議所専務理事
”	高 橋 宏 行	高橋宏行建築事務所
”	辻 正 彦	元旭・太田地区市民協議会会長
専務理事	池 阪 雄 宏	岸和田市企画調整部長
監 事	肥 後 眞 弘	肥後公認会計士事務所副所長

平成19年度岸和田市都市政策研究会の概要

1、組織構成

【研究会】

研究委員(会長)	上野谷 加代子	同志社大学社会学部教授
” (副会長)	久 隆 浩	近畿大学工学部教授
”	帯 野 久美子	インターアクトジャパン代表取締役
”	檜 谷 美恵子	大阪市立大学生活科学部准教授
”	山 本 敏 也	大阪府立産業開発研究所調査研究部 主任研究員
”	上 田 道 明	佛教大学社会学部准教授
”	岡 田 昌 彰	近畿大学工学部准教授
”	池 田 秋 男	平成16年度町会連合会会長
”	池 阪 雄 宏	岸和田市企画調整部長

【ワーキング会議研究員】

研究員(総括)	久 隆 浩	近畿大学工学部教授
研究員(主任)	岡 田 昌 彰	近畿大学工学部准教授
研究員	上 田 道 明	佛教大学社会学部准教授
”	田 中 晃 代	近畿大学工学部非常勤講師
”	室 田 信 一	武庫川女子大学非常勤講師
”	大 野 鶴 夫	NPO八尾すまいまちづくり研究会代表理事
”	玉 井 明 子	フリープランナー(都市計画)
”	谷 口 敏 信	岸和田市農業協同組合営農総合センター営農部長
”	牧 村 正 彦	岸和田青年会議所専務理事
”	青 山 織 衣	岸和田市社会福祉協議会
”	松 谷 廣 志	国際協力機構大阪国際センター
”	古 家 俊 次	久米田池を守る会
”	森 口 茂 樹	企画調整部企画課参事
”	平 野 豊	環境部環境保全課担当長(主査)

”	寺本隆二	市民生活部自治振興課担当長（主査）
”	奥野光好	建設部道路河川課主査
”	杉本旬	生涯学習部生涯学習課
研究員	松村憲一	(株)日本総合研究所事業本部

【市民研究員】

EYEフォーメーション 松浦 英夫・楠木 潔・坂東 茂雄・沖藤 政紀
かんきょう53 東山 千恵・相良 長昭・勇 徳和・秋田 秀実・奥 清司
岸和田経済研究会 藤井 康信・浅海 弘・今崎 照子
岸和田城界隈のまちづくりを考える会 奥 正孝・高倉 美佐子・江口 武志・黒田 千晶・
上田 直樹
岸和田ヤラカス会 野口 徹・小南 芳夫・北川 昌幸・中藤 昭夫・奥村 孝男・
後藤 文夫・福本 庄一
城先案内人 永谷 裕久・行 龍男・倉井 信夫・稲垣 康子
心芽（しんめ） 荻野 景一・高垣 直樹・池内 宏文・岸本 知也・信貴 一彦・
中村 彩
「ふるさと」の未来（生活と福祉）を考える会 金野 精一郎・才門 宏平・金野 稔

【事務局】

鍋谷裕志	きしわだ都市政策研究所事務局長
魚野和代	” 事務局員

2、調査研究等の経過

【研究会】

平成19年5月17日……第1回研究会

- ・研究委員の委嘱状交付
- ・ワーキング研究員の指名状交付
- ・市民研究員の認定状交付
- ・研究テーマ「地域力の創造にむけて～ソーシャルキャピタルのまちづくり」の調査研究予定

平成19年10月29日……第2回研究会

- ・岡田研究委員、山本研究委員からの話題提供
- ・ワーキング研究員の経過報告

平成20年1月21日～22日 先進都市視察調査

- ・岡山県新庄村
- ・鳥取県倉吉市

平成20年1月25日……第3回研究会

- ・ワーキング研究員、市民研究員の報告

平成20年3月25日……第4回研究会

- ・平成19年度調査研究の経過報告
- ・平成19年度ワーキング研究員、市民研究員の調査研究報告

岸和田ルネサンス

～「岸和田だんじり祭」・「地車力」で自立(Ⅱ)～

岸和田ヤラカス会

はじめに

前号VOL.14で当会の活動及びJR東岸和田駅周辺地域の「だんじり祭」現状を中心に検証した。

今年度(平成20年度)は前年度の検証に基づき新たな活動を計画し、岸和田の「地域力＝地車力」にはソーシャルキャピタルとなる潜在力があるかを検証した。

(6)「地車力」はソーシャルキャピタル

①観光客用チラシを制作

前年(平成19年度)のJR東岸和田周辺だんじり祭の2日間東岸和田駅周辺で見物人客を対象にアンケート調査をした。この時、見物人客より「だんじり祭の案内チラシ」の要望を多数受けたので、「だんじり祭観光案内チラシ」を制作することにした。JR東岸和田周辺だんじり祭には、旭太田・修斉地区年番が発行するチラシがある。これは地域内用のチラシであり、来場される見物人客や観光客用として制作していないので使用できない。新たに制作する必要がある。しかし、大きな問題がある。これらの制作費をどのように調達するかである。岸和田市内の企業・商店・個人より多数広告の協力を頂き年番がチラシを制作しているので、市内より広告協力を得ることは困難である。岸和田市外の企業・団体より広告に協力して頂くことにした。

大変苦勞したが、当会の活動を理解してくれる企業・団体があり制作費を確保できた。観光のコンテンツは和歌山大学岸和田サテライト岸和田ボランティアガイド協会及びその他の協力を得て観光客用のチラシを完成させた(資料No2)。

このチラシを制作するためにご協力を得た企業・団体を市内・市外に分けて表にし紹介したい(資料No1)。当会を通して地域内外より多数の協力頂いた。ソーシャルキャピタルの輪ができたのではないかと考えている。

②再度アンケート調査

前年(平成19年度)のJR東岸和田駅周辺だんじり祭の際、当会が手分けし、見物人に対してアンケート調査した。調査人数は141名であった。

今年(平成20年度)は、岸和田ボランティアガイド協会・和歌山大学学生及びJR西日本・阪和線東岸和田駅の皆様の協力を得て実施した。調査地点は、東岸和田駅前、東岸和田駅南一番踏切西側、旭・太田地区年番本部前の3ヶ所で、祭礼2日間でアンケート調査に814名の見物人客に協力して頂き、動向を調査した。調査結果は資料No3である。

調査結果は前年(平成19年度)とほぼ同様の数字であった。やはり観光客が確実に来場している。東岸和田駅周辺だんじり祭は、岸和田の観光地になったと証明できた。

③地車の組織はソーシャルキャピタル

地車を所有する町は、だんじり祭を中心に1年の行事を決定し、予算組みをする。地車を曳行するために、町民(子供会、少年団、青年団、若頭、世話人、年番)は組織されている。又その他の団体も協力する。町内のソーシャルキャピタルである。数町が集合した地域では、地車曳行の各組織の連合体ができ、それぞれの地域内で活動する。地域内のソーシャルキャピタルである。すなわち、地車を所有する町又地域には、ソーシャルキャピタルが出来上がっている。このソーシャルキャピタルを礎に JR 東岸和田駅周辺のだんじり祭に「賑わい」を創出し、観光地と変貌させた。岸和田だんじり祭の地車の組織、すなわち「地車力」はソーシャルキャピタルの潜在力として十分評価できる。

今回当会の活動で、市内の団体を中心にした地域内のソーシャルキャピタルと、市外の企業・団体を中心にした地域外のソーシャルキャピタルが合力し、大きな力を発生させてくれた結果、観光客用チラシを完成させてくれたと考えられる。

おわりに

今期、当会は JR 東岸和田駅周辺だんじり祭を中心にソーシャルキャピタルを研究し、当会の

活動を検証した。十数年かけて当地のだんじり祭を再生してきた当会の活動はソーシャルキャピタルそのものであった。又その努力の副産物として JR 東岸和田駅周辺だんじり祭は岸和田の観光地になりつつある。

ソーシャルキャピタルは、人と組織の輪である。今回の検証活動の中で理解した。ソーシャルキャピタルは長期に活動し維持しなければ、存在の価値はない。目的を持ち、達成するために長期に活動するには、資本(資金)無しでは、団体の維持が困難である。「人」「組織」「資本」の三要素を整えることが不可欠ではないか。

ソーシャルキャピタルを構成する個々の団体、組織は、ボランティア活動又公的な活動を多数されている。これらの活動をソーシャルビジネスとして位置づけ、ソーシャルカンパニーとして活動することを提案したい。

「継続は力なり」。岸和田だんじり祭は約300年継続している。又地車曳行組織も300年継続している。「地車力」はソーシャルキャピタルそのものである。そして「かつての賑わい都市」へ岸和田ルネサンスを興してくれる力がある。JR 東岸和田駅周辺だんじり祭の「地車力」は岸和田ルネサンスの波濤(はとう)の第一波を興した。

資料1. チラシ作成等に協力した企業・団体一覧

	市 内	市 外
A) 観光客用チラシ		
広 告	東岸和田駅周辺企業(3社)	社会的に知名度の高い企業(4社)団体(1社)
デザイン	印刷会社(1社)	広告会社(2社)
コンテンツ	和歌山大学岸和田サテライト 岸和田ボランティアガイド 岸和田だんじり会館 岸和田市観光振興協会 旭・太田十月祭礼年番・世話人会	JR西日本 旅行代理店(2社)
B) アンケート調査(調査人数:814名)		
協 力 者	岸和田ボランティアガイド 旭・太田十月祭礼年番・世話人会	和歌山大学 学生 JR西日本

資料2. 観光客用チラシ (原寸はA4見開き4ページ)

ようこそ! 岸和田十月祭礼

だんじり祭

平成二十一年度十月十日(土)・十一日(日)
JR阪和線 東岸和田駅周辺地区





飲んどこ!

◎グルクミン30mg配合 ◎スッキリ、おいしい!






近視矯正LASIK

KOBÉ CLINIC

0120-049-035

東岸和田観光

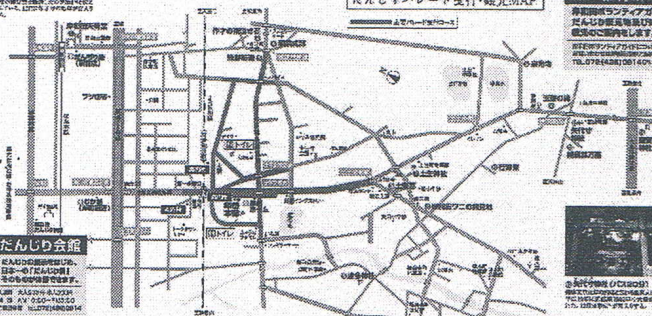


だんじり祭の楽しみ方

1. 会場へ集合
2. だんじりに乗る
3. だんじりを楽しむ
4. だんじりを見物する
5. だんじりを見物する
6. だんじりを見物する

だんじり会館

072-422-2212



だんじり舞行・観光MAP

みなさまの「安心」をサポートする国の共済制度

経営者へのサポート

050-5541-7171

大阪 本場みだし

072-423-1000

だんじり屋

072-422-2212

岸和田十月祭礼(だんじり祭)観光客・見物客調査結果

平成20年度JR東岸和田駅周辺地区

調査日時
平成20年10月11日AM11～PM5
平成20年10月12日AM11～PM5

<年代>		平成20年度		観客総数: 人		平成19年度 観客総数: 87,000人	
女性(人)	男性(人)	合計(人)	比率(%)	合計(人)	比率(%)	合計(人)	比率(%)
10代 20	10代 22	42	5	21	15		
20代 81	20代 25	106	13	38	27		
30代 85	30代 85	170	21	18	13		
40代 88	40代 108	196	24	13	9		
50代 69	50代 86	155	19	17	12		
60代 43	60代 66	109	13	23	16		
不明 18	不明 18	36	4	11	8		
合計 404	合計 410	814	100	141	100		

<地域>		(人)		合計(人)	比率(%)	合計(人)	比率(%)
岸和田市内	165	岸和田市内	171	336	41	66	47
泉州	98	泉州	86	184	23	28	20
大阪北部	53	大阪北部	38	91	11	27	19
他府県	71	他府県	88	159	20	20	14
不明	17	不明	27	44	5	0	0
合計	404	合計	410	814	100	141	100

<交通手段>		(人)		合計(人)	比率(%)	合計(人)	比率(%)
JR阪和線	147	JR阪和線	177	324	40	52	37
南海線	10	南海線	12	22	3	12	9
南海バス	10	南海バス	6	16	2	7	5
マイカー	125	マイカー	100	225	28	27	19
自転車	48	自転車	51	99	12	27	19
徒歩	27	徒歩	27	54	7	16	11
バイク	2	バイク	1	3	0	0	0
不明	35	不明	36	71	9	0	0
合計	404	合計	410	814	100	141	100

<都道府県別来場者(大阪府を除く)>		(人)			
1 兵庫県	38	8 福岡県	4	1 東京都	6
2 奈良県	23	9 佐賀県	2	2 兵庫県	4
3 和歌山県	18	9 鹿児島県	2	3 京都府	3
4 京都府	16	9 高知県	2	4 奈良県	2
4 東京都	16	9 三重県	2	5 愛知県	2
5 神奈川県	14	合計	159	6 北海道	2
6 愛知県	8			7 三重県	1
6 埼玉県	8	〔 近畿 101 〕		8 広島県	1
7 滋賀県	6	〔 その他 58 〕		9 四国	1

調査場所: JR東岸和田駅前、泉州銀行東岸和田支店前(南一番踏切下)、年番本部

調査主体: 岸和田十月祭礼旭・太田地区年番、OB会岸和田ヤラカス会(調査協力・岸和田ボランティアガイド)

岸和田ルネサンス

～「岸和田だんじり祭」・「地車力」で自立～

岸和田ヤラカス会

はじめに

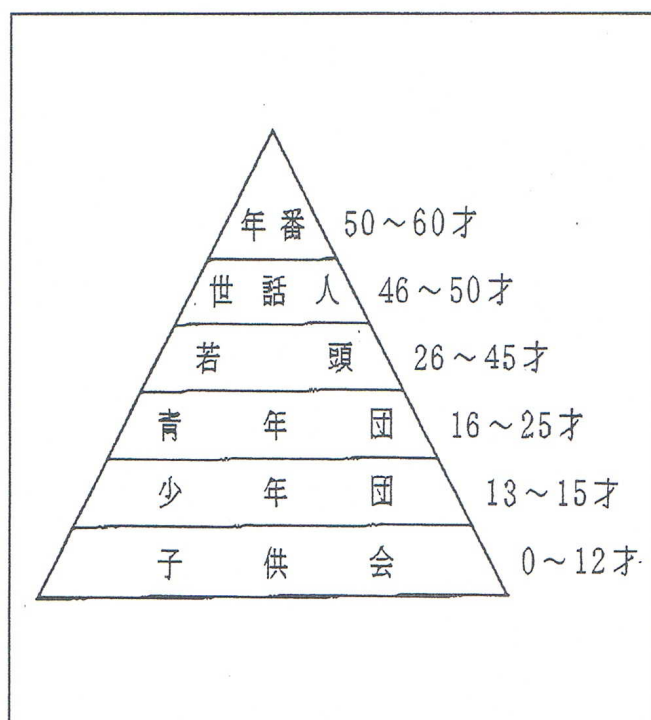
岸和田9月祭礼だんじり祭は、3日間で50～60万人の観客を集める全国でも有名な祭である。岸和田市制50周年に当たる1972年、記念行事として、NHKが「ふるさとの歌まつり」の番組で、岸和田9月祭礼だんじり祭を紹介することになり、この年の12月28日全国放映された。以来、全国的に有名になり、年々、華やかな祭になった。この9月祭礼だんじり祭の影に隠れているのが、岸和田10月祭礼だんじり祭である。しかし、ここ数年より多数の観客を集め、岸和田警察より9月祭礼だんじり祭のメイン見物スポットの「カンカン場」の警備の次に重要警備ポイントとまで言わせた場所がある。その場所はJR東岸和田駅周辺の10月祭礼の地車曳行コースである。この賑わい現象の仕掛けを担ってきた仲間の過去の種々な経験の中に「地域力」また、「岸和田再生」のヒントがあるのではないかと考えた。今回、きしわだ都市政策研究所に参加することにより、我々の経験をベースにまず「地域力」と「地域再生」を研究してみた。

岸和田ヤラカス会研究員7名はJR東岸和田駅周辺の5町出身者で、各町の祭礼団体である青年団、若頭、世話人、年番の各責務を経験した者である。

行政、警察、町会及び、各種祭礼団体（表1参照）と会議を重ねる中で、祭以外の問題点が多数あることを認識した。本来、だんじり祭の持つ民衆の力すなわち地域力が色々な面で噛み合わない

現実が、年々増幅し、危惧の念を抱いている。この地域力が真のソーシャルキャピタルと言えるのか、過去の実績と効果についても検証し、研究したい。

表1 祭礼の組織について（岸和田市内）
各町の祭礼組織図 人数：200～1500人



1. だんじり祭の地域力

(1) 田舎町の都市化

岸和田でのコミュニティ活動は、だんじり祭を成功させることも1つである。だんじり祭は子どもから老人まで男女すべてが参加でき、人々の心を1つにできる。しかし、うまく作動していない

ところも多々あるのが現状である。昭和40年頃から日本の高度成長に伴い大都市の近郊市町村に新住民の流入、ベッドタウンとしての人口増加、新住民と旧住民との融合が図り難くなった。地域の協力や共生の活動に問題が各地で起こってきた。すなわち「田舎町の都市化」である。この「田舎町の都市化」の波が東岸和田周辺にもきた。

住民の融合が図り難い点について、だんじり祭を運営・活動の視点からみたとき下記の問題点を提起したい。

- ①個人主義の住民の増加
- ②住民の価値観の多様性

上記の問題点が複雑にからみ合い、だんじり祭の参加者減少、参加者の偏り、特に次世代を担う青少年の参加減少が目立ち始めている。また、町民の地域活動の空洞化、希薄化の現象がみられるようになってきた。将来、地域力の不足がだんじり祭運営にも支障をきたすと考えられる。

(2) 地域の賑わい不足

だんじり祭は五穀豊穡を地域の氏神様に感謝、祈願する神事の一行事であり、地車曳行は豊作を氏神様と共に氏子が祝いの宴として行うものである。現在では地域コミュニティ、地域力の結束としての役目も担っているはずだ。

地域や町としてだんじり祭を維持するには、旧来のだんじり祭、祭礼組織に町民が自発的または積極的に参加しようとする環境を整備する必要があると考えました。

まずは、町民に理解しやすく、参加を促す「楽しい」「賑わい」をだんじり祭に創造することから始めました。この活動がJR東岸和田駅周辺10月祭礼だんじり祭の地域力再生の第一歩でした。

2. 「楽しい」「賑わい」の創造

(1) 「楽しい」祭の仕掛け

我々の実行を次に例記しました。

- ①従来の各町独自の曳行を一元的に統一し、合同

曳行にする。

- ②合同曳行をJR東岸和田駅周辺曳行へ指導する。
- ③合同曳行を安全に実行するために、祭礼各団体と協議し、理解を得る。
- ④各町及び祭礼全体を統括する年番の活性化と意識改革
- ⑤地域合同曳行推進のための人々との対話と理解
- ⑥現状の祭礼を求める行政や警察との理解や協力
- ⑦JR東岸和田駅周辺曳行道路の安全対策
 - i) JR、南海バス、その他交通機関の理解と協力
 - ii) 土生交差店内のガードレールを地車曳行時は撤去（ガードレールの脱着型に改造。写真1）

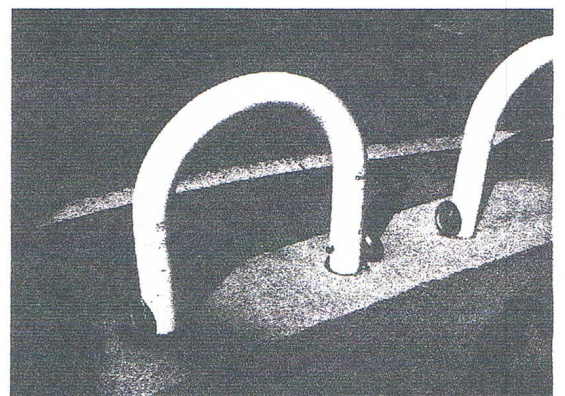
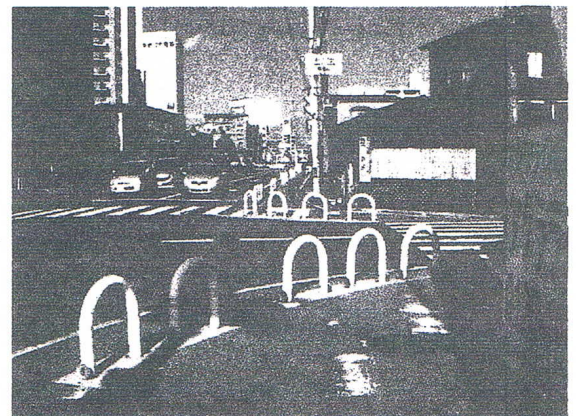


写真1 ガードレール脱着型

iii) 土生交差点内及び JR 東岸和田駅南一番踏切前道路を地車やりまわしの際の転倒防止のため、水平に舗装仕上げする。(写真 2)

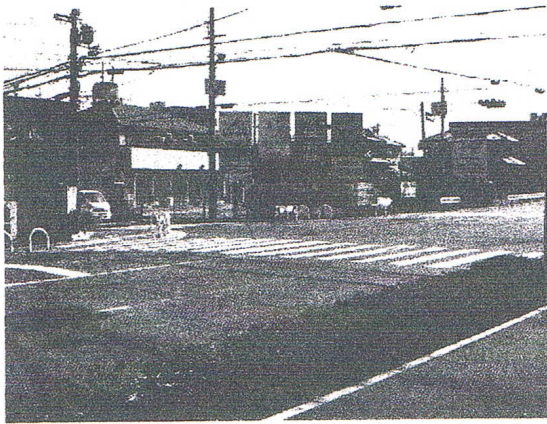


写真 2-1 土生交差点

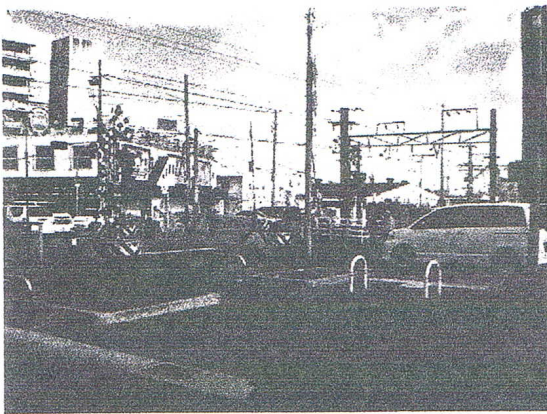


写真 2-2 JR 東岸和田駅南一番踏切前

(2) 「賑わい」のある祭の仕掛け

① だんじり祭の魅力であるだんじり曳行を各町の住民が見物できるように塔原岸城線の道路一車線を観客席の場所に開放する。(写真 3)



写真 3 道路一車線

② 安全曳行のために、警察の協力をえて曳行時に JR 東岸和田駅周辺道路を完全通行止を実現する。

③ 各町民に祭礼参加を促し、理解協力を得るためにだんじり祭の広報及びパンフレットを作成し、各町会を通じ配布する。

④ だんじり祭をトラブルなく安全に催すために JR 東岸和田駅周辺の住民、店舗、会社、JR、その他関係者との事前協議をし、協力を得る。ここで、我々の活動を年譜にまとめてみた。

(表 2 参照)

表 2 東岸和田地域「だんじり祭」活動年譜

平成 5 年	JR 東岸和田駅周辺道路へ地車曳行コースの拡大を計画
10 年	修斎地域 5 町地車本宮パレードに参加
12 年	葛城町地車同上パレードに参加
14 年	塔原岸城線拡幅(片側 2 車線)完成 同線 1 車線を観客席として開放する 修斎地域 6 町地車曳出しパレードに参加 「だんじり祭」の広報・パンフレットの作成をはじめる。
15 年	作才町地車パレードに参加
16 年	年番組織の活性化
18 年	年番組織の O.B 会設立(警備と運営組織充実のため)
19 年	JR 東岸和田駅周辺コースでアンケート調査を行う

(3) だんじり祭に変化

だんじり祭に変化が表れた。各町民や祭礼団体にも年々理解され、地域コミュニティ維持のためにだんじり祭の有効性を理解されたと実感した。特に実感した動きとして紹介したい事例がある。

JR 東岸和田駅周辺曳行に当地域の南側にある修斎地域より地車曳行の希望が寄せられ、平成 10 年 10 月より参加。新興住宅地の葛城町の有志が地車を購入され参加。平成 15 年には作才町の有志が

地車を購入され参加した。現在、東岸和田駅周辺曳行コースに11町の地車が参加している。

最近の JR 東岸和田駅周辺曳行コースには各町民、祭礼団体、青少年が多数参加され、祭礼参加者減少に歯止めをかける効果に我々の活動が有効であったと考える。改めてだんじり祭による地域コミュニティや地域力の構築に大いに役立つと確信した。

我々が活動して十数年、JR 東岸和田駅周辺のだんじり祭の流れは変化した。この流れの副産物として、地域外へ広報 PR 活動を一切していないにもかかわらず、ここ3~4年前より7~8万人の観光客を含む見物人が来場し、大いに賑わいのあるだんじり祭になった。賑わいは当初の目的であるので、大変うれしいことであるが、他方、この「賑わい」が新しい問題として発生してきている。この問題点については後述する。

(4) だんじり祭を変化させた理由

当地のだんじり祭変化させるのに十数年の年月を必要とした。長い地道な歩みであった。その理由は下記の点にある。

- ①各町に強い信念をもつリーダー的人物の存在。
- ②各町に「楽しい」「賑わい」の祭を実現する勇氣と信念があった。
- ③硬直的な旧来の組織を現実の時代に適合するように改革した。
- ④地域を統括する年番組織を継続性のある組織として再構築した。
- ⑤行政の力に頼らず、民衆の知恵と力で進めた。

机上で対策を作成してもすぐに実行しなければ事は動かない。実行する人材と実現するための組織がうまく適合した。この合力が前進させたのであると考えられる。

3. 観光客を呼ぶ

(1) 観光客が来た

十数年前までは田舎の祭。見物人も各町民また

は祭礼団体関係者のみの寂れただんじり祭であった JR 東岸和田駅周辺は、現在、岸和田だんじり祭の市内でも有数のだんじり祭見物スポットと認知されるまでになった。関係者として大変喜ばしいことである。しかし、あまりにも急に観光客が多数来場し、対応に苦慮している。我々は現状の来場者の詳細を知ることが、今後の対応に不可欠であると考え、平成19年10月祭礼時の2日間、東岸和田駅周辺曳行コースで見物人にアンケート調査を実施した。このアンケート調査で我々が想像もしなかった現実を知らされた。表3のアンケート調査結果を見ていただきたい。なんと約50%の見物人は岸和田市以外から来場された観光客であることがわかった。平成19年10月祭礼 JR 東岸和田駅周辺には、岸和田警察の発表によると、見物人数78,000人が来場している。10月祭礼岸和田だんじり祭時には、JR 東岸和田駅周辺曳行コースはだんじり祭の観光地になったと考えてもよいのではないか。

表3 平成19年度10月祭礼(だんじり祭)観光客・見物客調査結果

調査日：平成19年10月6日・7日					
1) 調査件数別比率					
	他府県(%)	大阪府北部(%)	泉州(%)	岸和田市内	計(件)
10月 / 6日(土) 宵宮	6 (15.3)	7 (17.9)	11 (28.2)	15	39件
10月 / 7日(日) 本宮	5 (15.6)	6 (18.8)	7 (21.9)	14	32件
計(件)	11件(15.5)	13件(18.3)	18件(25.3)	29件	71件
2) 調査人数別比率					
	他府県(%)	大阪府北部(%)	泉州(%)	岸和田市内	計(人)
10月 / 6日(土) 宵宮	8 (10.0)	17 (21.3)	21 (26.3)	34 (42.4)	80人
10月 / 7日(日) 本宮	12 (19.7)	10 (16.4)	7 (11.5)	32 (52.4)	61人
計(人)	20人(14.2)	27人(19.1)	28人(19.6)	66人(47.1)	141人
3) 他府県及大阪北部より来客詳細					
	地名	件数	知った手段	交通手段	
A 他府県	兵庫県	神戸	1	以前より知っている	JR
		姫路	1	インターネット	JR
	東京		1	インターネット	飛行機&JR
			1	テレビと知人	南海
	奈良	1	知人	JR	
	広島	1	以前より知っている	JR	
	名古屋	1	以前より知っている	JR&近鉄	
	京都		1	じゃらん	JR
			1	じゃらん	JR
	北海道※		1	テレビ	飛行機&JR
名張		1	知人	JR&近鉄	
B 大阪府北部	大阪市		4	以前より知っている	JR
			1	JR ウォーク	JR
			1	ポスター	JR
			1	インターネット	JR
	茨木市	1	JR ウォーク	JR	
	豊中市		1	以前より知っている	JR
			1	以前より知っている	JR
	吹田市		1	ポスター	JR
			1	インターネット	JR
			1	知人	JR
4) リピーター比率					
来年も来ますか? はい 122人(86.5%) いいえ 1人(0.8%) 不明 18人(12.7%)					
5) ※北海道1件(2名)は「よさこいソーラン祭り」の仕掛人					

(2) 観光客が増えた理由

曳行者の地車曳行が楽しければ賑わい、観光客も賑わい満足する。観光客がさらに賑わって楽しんでいただければ、地車曳行もさらに楽しく賑わいを増す。JR 東岸和田駅周辺だんじり祭がここ数年で観光客を増やしてきているのは、曳行者側と観光客側の両面に配慮しただんじり祭運営に力を入れてきた結果であると自負する。

元来、岸和田だんじり祭の運営は曳行側の理論に立ち、すなわち曳行側の都合に合わせ曳行・運営を行っていた。観光客に留意していない。岸和田だんじり祭は見せ物ではないとの考えが、曳行関係者の中では主流である。観光客への配慮が乏しいのが現状である。

我々はだんじり祭を行う側、祭を見る側、すなわち芝居と同じで役者と観客との関係であると考え。だんじり祭の舞台をつくりあげるのが、JR 東岸和田駅周辺だんじり祭の運営者の役目である。ここ十数年かけて我々が創造してきたこの地車曳行舞台に観客がだんじり祭の楽しみや賑わいを求めて来場されている。

(3) 地域力 (=地車力) と観光客

JR 東岸和田駅周辺だんじり祭は楽しい、賑わいのある地域力を維持している。この賑わいが当地域以外の人々をも感動させたのであろう。観光客の増加が顕著になってきた。そして、この増加してきた観光客の安全を確保するためのだんじり運営及び警備の人員確保が急務である。岸和田警察のここ数年の見物人を含む観光客の集計数字をみると、毎年 5,000~7,000 人位増加している。2~3 年後には 10 万人を越すと考えるべきであろう。早急に今後増加する見物人を含む観光客への対応を考えなければならない。この対応が遅ればだんじり祭に大きく影響してくる。見物人を含む観光客の増加が新たな問題点となっている。今後、どのように受け入れ、だんじり祭を維持発展させるための手だてを考える時期がきた。この増加の流れを我々は避けて通れない。

4. JR 東岸和田駅周辺開発とだんじり祭

一方、岸和田市の都市計画に JR 東岸和田駅前再開発計画がある。この計画の主体は JR 阪和線東岸和田駅付近高架化事業と東岸和田駅東地区防災街区整備事業である。

これらの計画の詳細を調査すべく岸和田市の現地事務所を訪問した。計画の一部であるが全体計画図をいただいた (図 1 参照)。JR 東岸和田駅周辺の道路は大きく変わることが明記されており、JR 東岸和田駅東側は JR 下松駅や南海本線岸和田駅前と同じように、道路が袋小路のロータリーになっている。これらの道路は車を利用する乗降客の利便性を求めた全国一律の形式でつくられる。再開発事業の道路計画ではだんじり祭の運営及び地車曳行にたいへん支障をきたすと考えられる。

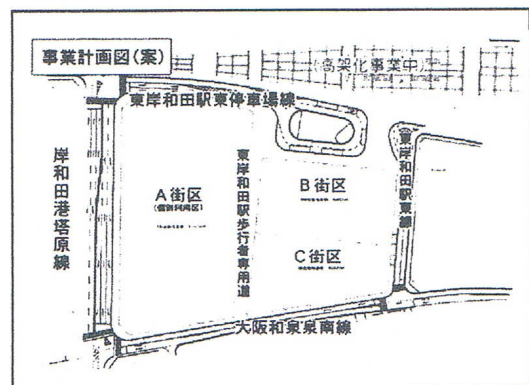


図 1 東岸和田駅周辺事業計画 (案)

十数年かけて築いてきた地域力の維持が、これらの計画道路で弱体化する恐れがある。

ここで、「道とは何だろう」と考えてみよう。中村良夫東京工業大学教授は「道とは発見、交流、創造の場である。また、本来、道のもっている価値を知るべきである。」と言っておられます。シルクロードを例に考えてみると、紀元前より西洋・中近東・アジアの幹線交易道でありました。各地の物質が運ばれ、経済交易が盛んに行われると同時に、人々が交流することにより地域の文化も各地へ運ばれ、伝承も同時に行われました。日本にも多数の物質や文化がもたらされ、日本文化にも

大きな影響を与えられました。日本国内にも多数の街道があり、岸和田市内には街道が2本通っていました。小栗街道(熊野古道)と紀州街道です。これらの街道筋には多数の文化遺産が各地にあり、岸和田本町地区の紀州街道筋には、歴史を語る建築物などが数多く遺されている。

道は新たなまちを創作する。道は地域の文化、交流、創造の場であり、地域の自己実現の場であることを再確認してもらいたい。この再開発事業は住民にとって100年に1回あるかの大変重要な機会です。行政だけに任せるのではなく、今一度、地域住民は「道」の重要性を考えていただきたいと考えます。

JR東岸和田駅周辺開発地域は、地域の文化や住民の要望の入った道路ではないのではないか。旧来の行政指導による利用者の利便性のみを重視した画一的な道をつくるのではなく、地域の文化を発信・創造する楽しい、賑わいのあるだんじり祭の舞台としての道を構築すべきであると考えます。

5. 次年度にむけて

十数年前から今日まで、JR東岸和田駅周辺10月祭礼だんじり祭を中心に、我々は内側からと外側からの要因について検証、研究してきました。東岸和田地域は、だんじり祭を変えました。地域力低下の歯止めには十分力を出したと考えます。また、人々の視線の表面的なものも少し変化させることができたとも考えています。今後も息長くだんじり祭の地域力を継続させていかなければならない。この地域力は、岸和田の地車力である。この「地域力・地車力」には、ソーシャルキャピタルとなる潜在力があると考えられる。

次年度は、提起した種々の問題を再検証し、また、この地域力、地車力が岸和田再生ルネサンスの可能性があるのか、追求・研究してみようと考えています。